

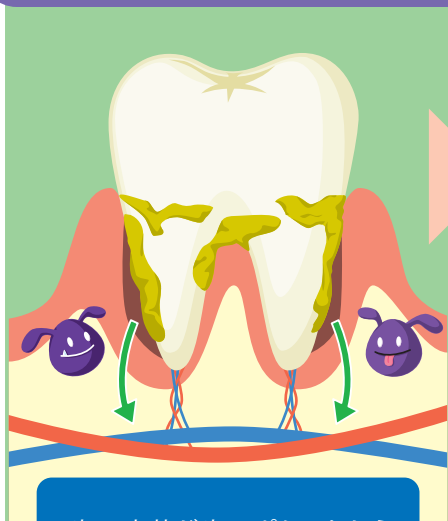
歯周病と心疾患

日本人の約80%が罹っているとされる歯周病ですが、最近の研究で血管や臓器に悪影響を与えることが判ってきました。特に心臓の病気に関して、歯周病のある人は、ない人に比べて発症リスクが高くなることが報告されています。

歯周病菌が心臓病のリスクを高める

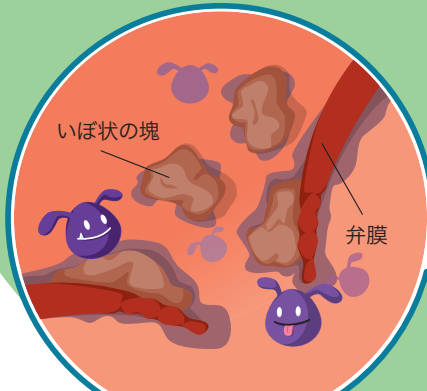
歯周病菌が歯周ポケットなどから血液中に流れ込むと、血管内壁に血栓をつくり、動脈硬化を促進。これが心臓の冠動脈に起こると、心筋梗塞や狭心症のリスクを高めると言われています。また、歯周病菌が心臓（心内膜や弁膜）に感染すると心内膜炎を誘発。心臓の炎症や組織破壊、全身の敗血症を引き起こし、心不全を招くこともわかってきました。

歯周病が悪化すると



歯周病菌が歯周ポケットから血液の中に流れ込む

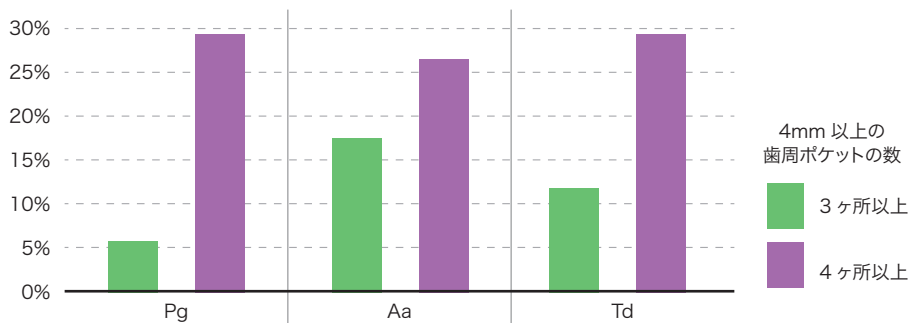
心臓の冠動脈に歯周病菌が付着し、粥腫（プラーク）を形成。動脈硬化を促進させ、心臓病を引き起こす。



歯周病菌が心臓（心内膜や弁膜）に感染し、いぼ状の塊を形成。組織破壊や全身の敗血症を招いて心不全に。

感染性心内膜炎

動脈硬化を起こした血管から、歯周病菌が見つかった人の割合



「歯周病と生活習慣病の関係：歯周炎と動脈硬化・心臓病」より

つまり

歯周病が重度であればあるほど心臓病の発症リスクが高くなる

歯周病は口の中だけの病気とあなどらず、定期的な歯科検診を心がけましょう。治療の必要性がある場合は、歯周治療や歯科治療を受けることをお勧めします。